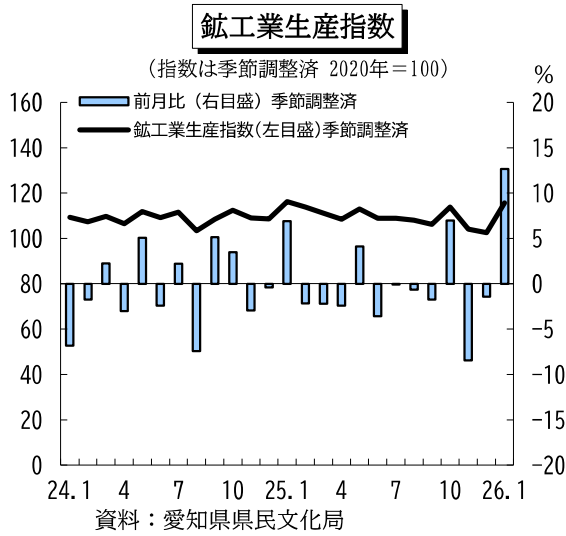


あいち経済の動き（月報）

（2026年1月分）

生産：鉱工業生産指数（季節調整済）は、前月比12.7%の上昇



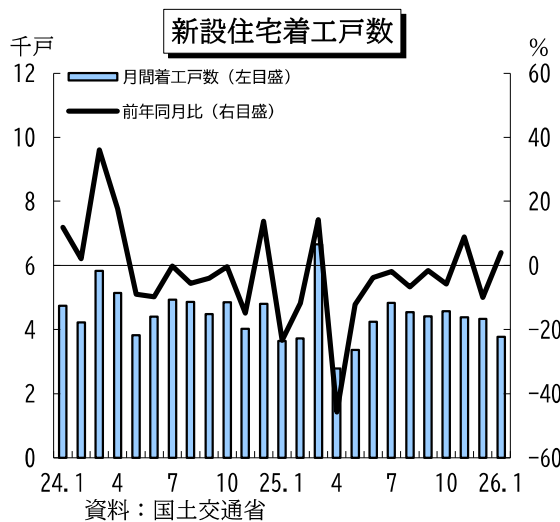
2025年11月	12月	2026年1月
↘	→	↗

主な指標の動き

鉱工業生産指数（季節調整済）は、前月比で、輸送機械工業が20.7%上昇するなど、全体で12.7%の上昇となりました。

また、鉱工業生産指数（原指数）は、前年同月比で、輸送機械工業が7.7%低下するなど、全体では3.1%の低下となりました。

投資（住宅建設）：新設住宅の月間着工戸数は、前年同月比4.0%の増加



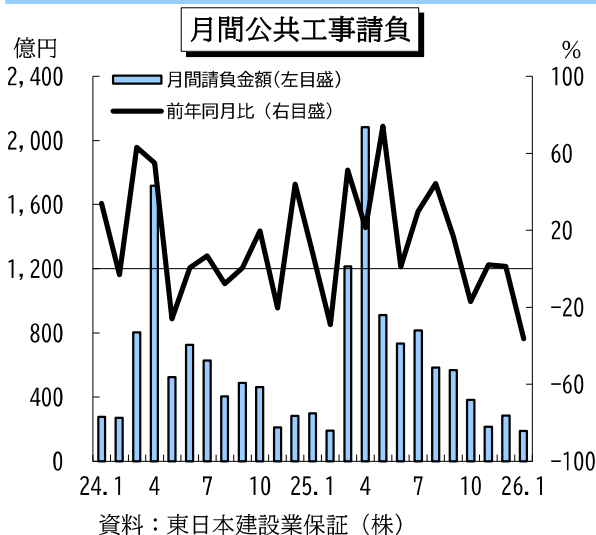
2025年11月	12月	2026年1月
↗	↘	↗

主な指標の動き

新設住宅の月間着工戸数の前年同月比は、4.0%増となり、2か月ぶりに増加となりました。

主な内訳は、分譲住宅が24.2%、持家が14.5%増加し、貸家が15.7%減少となっています。

投資（公共工事）：公共工事の月間請負金額は、前年同月比36.4%の減少



2025年11月	12月	2026年1月
→	→	↘

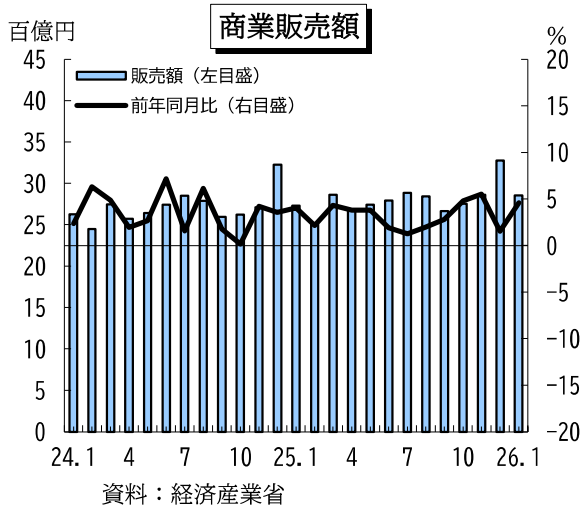
主な指標の動き

公共工事の月間請負金額の前年同月比は、36.4%減となり、3か月ぶりに減少となりました。

月間請負件数の前年同月比は、11.4%減となり、4か月連続で減少となりました。

※上記の矢印の向きは月間請負金額を示すもの。

個人消費：商業販売額は、前年同月比4.6%の増加



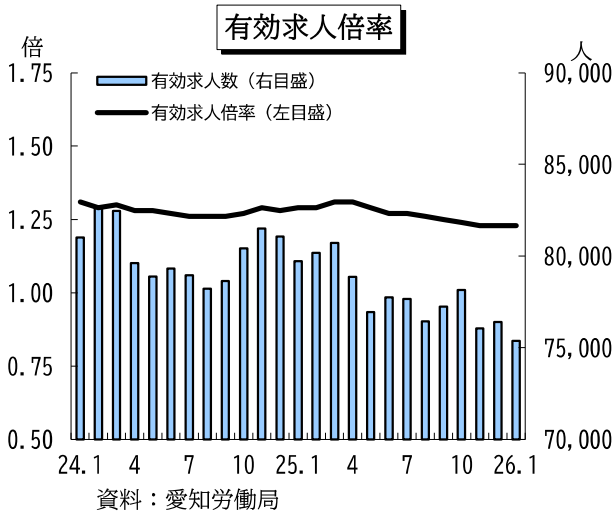
2025年11月	12月	2026年1月
↗	→	→

主な指標の動き

スーパーなどの商業販売額の前年同月比は、4.6%増となり、53か月連続で増加となりました。

主な内訳として、スーパー販売額の前年同月比は、飲食料品が3.6%増となるなど、全体では3.6%の増加となりました。

雇用：有効求人倍率は、1.23倍



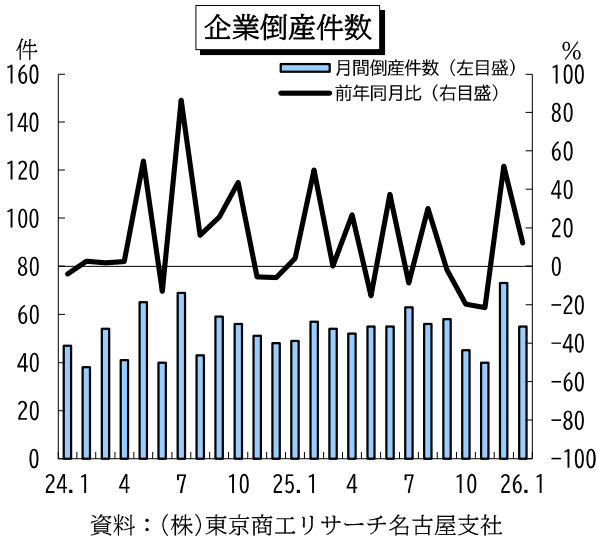
2025年11月	12月	2026年1月
→	→	→

主な指標の動き

有効求人倍率は、1.23倍で前月と同水準になりました。

有効求人数の前年同月比は、5.5%減となり、20か月連続で減少となりました。

企業（倒産）：月間倒産件数は、前年同月比12.2%の増加



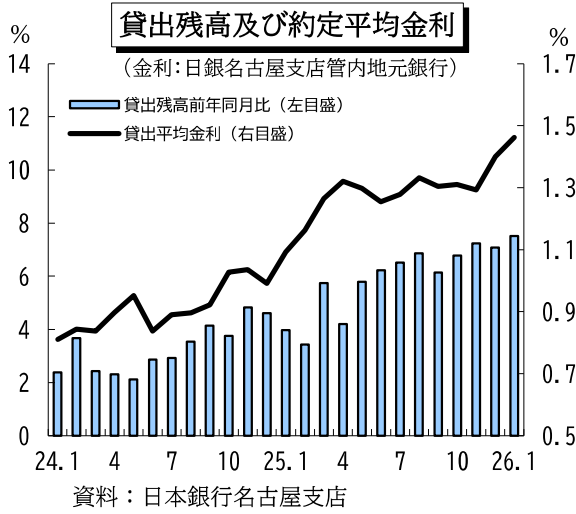
2025年11月	12月	2026年1月
↗	↘	↘

主な指標の動き

企業の月間倒産件数は55件となりました。また、前年同月比では12.2%増となり、2か月連続で増加となりました。

業種別にみると、倒産件数の多い順に、サービス業他が18件、建設業が13件、小売業が8件、製造業及び運輸業が5件、卸売業が3件、情報通信業が2件、不動産業が1件となっています。

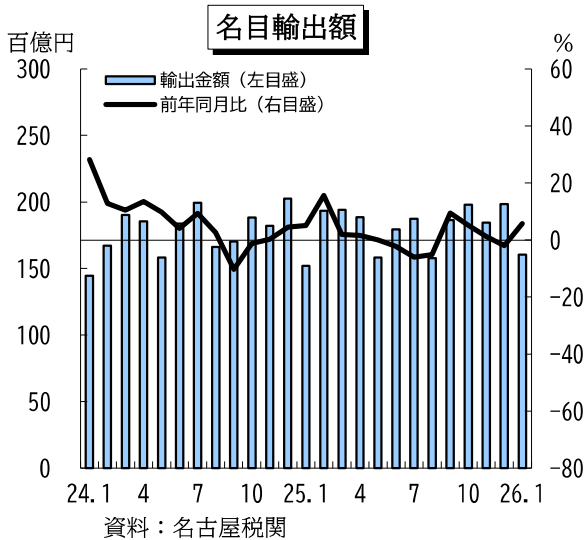
企業（金融）：貸出残高は、前年同月比7.5%の増加



2025年11月	12月	2026年1月
↗	↗	↗

主な指標の動き		
<p>貸出残高の前年同月比は、7.5%増となり、44か月連続で増加となりました。</p> <p>貸出金利は、前月から0.062ポイント上昇し、2か月連続で上昇となりました。</p> <p>※上記の矢印の向きは貸出残高を示すもの。</p>		

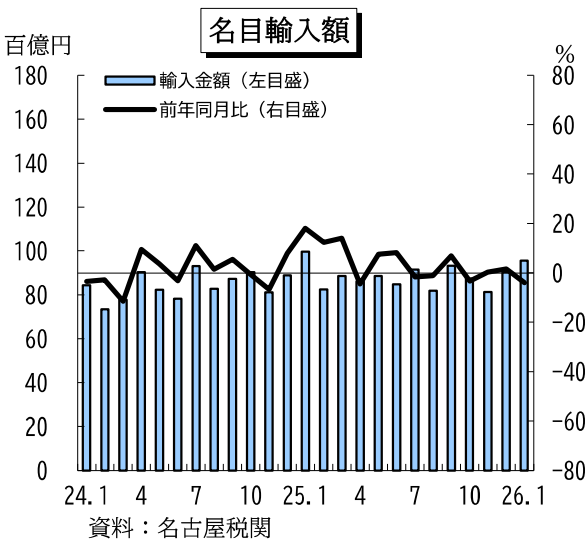
貿易（輸出）：名目輸出額は、前年同月比5.7%の増加



2025年11月	12月	2026年1月
→	↘	↗

主な指標の動き		
<p>名目輸出額の前年同月比は、5.7%増となり、2か月ぶりに増加となりました。</p> <p>内訳を地域別にみると、EU向けの輸出が32.2%、アジア向けが17.5%増加し、北米向けが6.3%の減少となりました。</p>		

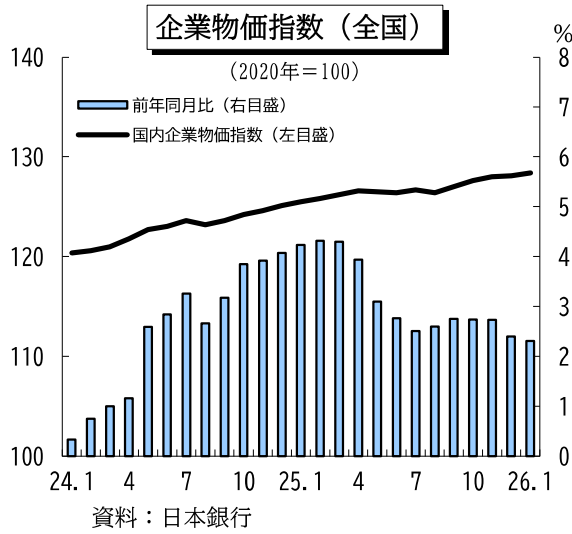
貿易（輸入）：名目輸入額は、前年同月比4.0%の減少



2025年11月	12月	2026年1月
→	→	↘

主な指標の動き		
<p>名目輸入額の前年同月比は、4.0%減となり、3か月ぶりに減少となりました。</p> <p>内訳を地域別にみると、北米からの輸入が5.7%、アジアからは2.2%減少し、EUからは7.9%の増加となりました。</p>		

物価（企業物価）：企業物価指数は、前年同月比2.3%の上昇



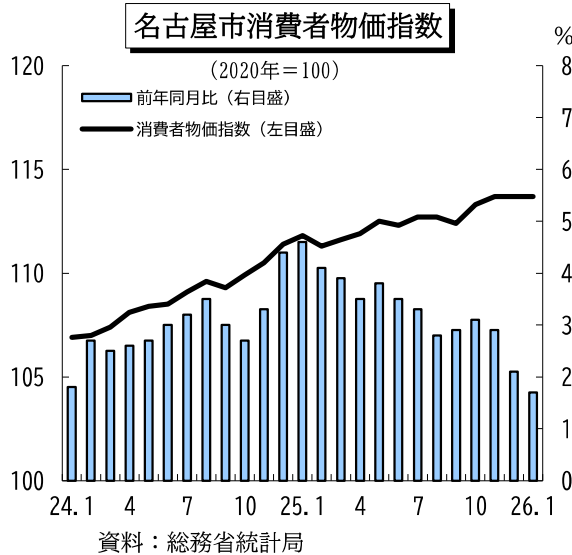
2025年11月	12月	2026年1月
↗	↗	↗

主な指標の動き

国内品の企業物価指数（2020年=100）は、128.4となりました。また、前年同月比は2.3%上昇し、59か月連続の上昇となりました。

前月比では0.2%の上昇となりました。

物価（消費者物価）：名古屋市消費者物価指数は、前年同月比1.7%の上昇



2025年11月	12月	2026年1月
↗	↗	↗

主な指標の動き

名古屋市消費者物価指数（総合）（2020年=100）は、113.7となりました。また、前年同月比は1.7%上昇し、51か月連続の上昇となりました。

前月比では0.1%の低下となりました。

（注）矢印は、3か月前比を中心に変化の方向を表すため、毎月の変動とは異なる場合があります。

経済指標の矢印判定の推移

	2025年 8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月
生産	⇒	⇒	▲	▼	⇒	▲
投資(住宅建設)	⇒	⇒	▼	▲	▼	▲
投資(公共工事)	→	▲	▼	⇒	⇒	▼
個人消費	→	→	→	▲	→	→
雇用	→	→	→	→	→	→
企業(倒産)	▼	▲	▲	▲	▼	▼
企業(金融)	▲	→	▲	▲	▲	▲
貿易(輸出)	▼	▲	▲	→	▼	▲
貿易(輸入)	▼	⇒	▼	⇒	⇒	▼
物価(企業物価)	→	▲	▲	▲	▲	▲
物価(消費者物価)	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	2	5	6	6	3	6
→	4	3	2	2	2	2
▼	3	0	3	1	3	3
⇒	2	3	0	2	3	0

(注) 水平矢印の黒色・白色は直近の上向き・下向き矢印に依存する。

あいち経済の動き・矢印判定基準等

使用データ		矢印判定基準	
生 産	愛知県県民文化局統計課「愛知県鉱工業指数」/ 生産指数(鉱工業)	↑：前月比3%以上プラスかつ対3か月前比プラス ↓：前月比3%以上マイナスかつ対3か月前比マイナス →：上記以外	
投 資	住宅建設	国土交通省「住宅着工統計」/新設住宅着工戸数	↑：月間着工戸数の対前年同月比3%以上プラスかつ同比の対3か月前比プラス ↓：月間着工戸数の対前年同月比マイナスかつ同比の対3か月前比マイナス →：上記以外
	公共工事	東日本建設業保証㈱「公共工事前払金保証統計」/ 月間請負金額	↑：対前年同月比3%以上プラスかつ同比の対3か月前比プラス ↓：対前年同月比マイナスかつ同比の対3か月前比マイナス →：上記以外
個人消費	経済産業省「商業動態統計」のうち「業態別、 都道府県別、商品別販売額等」 /商業販売額合計	↑：対前年同月比5%以上プラスかつ同比の対3か月前比プラス ↓：対前年同月比マイナスかつ同比の対3か月前比マイナス →：上記以外	
雇 用	愛知労働局「最近の雇用情勢」/有効求人倍率	↑：有効求人倍率1超かつ対3か月前比プラスの場合又は 有効求人倍率対前月0.1ポイント以上プラスで、かつ対3か月前比0.2 ポイント以上プラスの場合 ↓：有効求人倍率1未満かつ対3か月前比マイナスの場合又は 有効求人倍率対前月0.1ポイント以上マイナスで、かつ対3か月前比0.2 ポイント以上マイナスの場合 →：上記以外	
企 業	倒 産	㈱東京商工リサーチ名古屋支社「東海三県下企業倒産 動向」	↑：月間倒産件数の対前年同月比マイナスかつ同比の対3か月前比マイナス ↓：月間倒産件数の対前年同月比5%以上かつ同比の対3か月前比プラス →：上記以外
	金 融	日本銀行名古屋支店「都道府県別預金、現金、貸出金 (国内銀行)」/貸出残高	↑：対前年同月比1%以上プラスかつ同比の対3か月前比プラス ↓：対前年同月比マイナスかつ同比の対3か月前比マイナス →：上記以外
貿 易	輸 出	名古屋税関「管内貿易概況」/名目輸出額	↑：対前年同月比5%以上プラスかつ同比の対3か月前比プラス ↓：対前年同月比マイナスかつ同比の対3か月前比マイナス →：上記以外
	輸 入	同 上/名目輸入額	同 上
物 価	企 業 物 価	日本銀行「企業物価指数」/国内企業物価	↑：対前年同月比1%以上プラスかつ対3か月前比プラス ↓：対前年同月比マイナスかつ対3か月前比マイナス →：上記以外
	消 費 者 物 価	総務省統計局「消費者物価指数」/名古屋市(総 合)	同 上
区 分	上 昇	横 ば い	下 降

(注) 1. 矢印は、対前年比、3か月前比を中心に変化の方向を表す。

2. 「倒産」については、倒産件数が上昇の場合は“↘”を、下降の場合は“↗”を表示する。